

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

企業は社会のための機関 (P. F. ドラッカー)

1. 企業をはじめとするあらゆる組織が社会の機関である。組織が存在するのは、組織それ自体のためではない。社会的な目的を実現し、社会、コミュニティ、個人のニーズを満たすためである。組織は目的ではなく手段である。したがっても問題は、その組織は何かではない。その組織は何をなすべきか、あげるべき成果は何かである。
2. あらゆる組織は、人を幸せにし、社会をよりよいものにするために存在する。資本主義なのだから利益を上げなければならない。しかし、利益を上げることが目的なのではない。組織が人と社会のための手段であると同じように利益もまた、人と社会のための手段である。
3. 人を幸せにし、社会をよりよいものにするには、組織がよい仕事をしなければならない。財・サービスを提供して物的な豊かさをもたらさなければならない。人を生き生きと働かせ、人の心に豊かさをもたらさなければならない。そのために、組織は、明日さらによりよい仕事をしなければならない。
4. 不景気のなかにあって伸びていく企業は、皆そのようにマネジメントしている。景気がよくて誰でも利益を上げられた頃は、利益、利益と念仏を唱えるだけでよかった。ところが、今日のような不景気になると、利益、利益と言っていたのでは、存続さえ怪しくなる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2009年4月25日号)

経営者のための理念・哲学

万物一体の仁

1. 王陽明の有名な言葉に「万物一体の仁」という言葉があります。これからの時代、何よりもこの「万物一体の仁」が求められていると思っています。いま、エコだなんて言われていますが、これからの時代は余計な自然破壊にピリオドを打って、人間も自然も共生しなくてはなりません。これも「万物一体の仁」の一つの表れです。
2. 仁というのは人を愛することです。けどどうしても人間は自己愛に陥ってしまいがちです。自分だけよければよい、人間だけがよければよいというふうになってしまう。人を愛すること、人を許すことを覚えること。そうすることで、よりよい社会が実現していくことになります。

(参考:「致知」:2009年8月号)

経営者のための経済学

経済の主役は生産物とその流通

佐伯 啓恵(京都大学大学院教授)

1. 今回の危機の背景には「ふたつの経済」の対立があった。貨幣や金融商品が流通する金融経済と、モノづくりと生産された商品を流通させる実体経済の間の対立である。本来は、このふたつの経済は特に対立するものではない。金融とは、あくまで、モノづくりやモノの交換を容易にし、効果的に行うための補助的手段だったはずだからだ。経済の主役はもともと生産物とその流通にあり、金融は補助なのである。
2. にもかかわらず、実際にはそうではない。理由は簡単で、経済の主役はモノづくりとその流通なのだが、それを可能とするには、先立つオカネがまずなければならないからだ。だから、オカネの流れを制御することは、市場を機能させるためにきわめて重要なことであった。

(参考:「WEDGE」2009年8月号)

古典に学ぶ

仕事の処理

「それについて第一に大切なことは、仕事の処理をもって、自分の修養の第一義だと深く自覚することでしょう。次に大切なことは、このような自覚に立って、仕事の本来軽重をよく考えて、それによって事をする順序次第を立てるということです。次に同じ大事な事柄でも、大体何から片付けるかという先後の順序を明弁するということです」

(参考:森信三「修身教授録抄」:致知出版社)